事業名：6　魚病対策事業
期　間：H28 年度
予算額：単県（1,705 千円うち国庫 486 千円）
担　当：養殖・漁場環境室（西田　智亮）
目　的：
養殖魚の魚病による漁業被害低減のために予防対策，魚病検査，魚病の蔓延防止を行うことで養殖生産の安定化を図る．

成果の要約
1）事業内容：
(1) 魚病の防疫に関する情報収集
魚病に関する全国会議や地方ブロック会議へ参加し，魚病の防疫に関する情報収集を行う．

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導
魚病の検査や，養殖場の巡回を行い，適正な養殖を推進し，食の安全を守るとともに、病気の蔓延などを防止する．

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策
県内で問題となっている魚病について調査、研究を行い，蔓延状況を把握や対策を講じる．

2）結果の概要
(1) 魚病の防疫に関する情報収集
9 月 8 日，9 日に高知県にて開催された近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会に参加した．近畿，中国，四国地方の 13 府県が参加し，内水面での魚病の発生状況の報告，魚病の症例検討などを行った．会議後には，魚類防疫士連絡協議会が開催された．広島県総研東部工業技術センターの飯田氏を講師として招き，魚病の初期症例と予防に関する基礎知識について講義を受けた．
11 月 17 日，18 日に鳥取県にて西部日本海ブロック魚類防疫対策会議を開催した．西部日本海の 5 府県が参加し，海面での魚病の発生状況の報告，魚病の症例検討などを行った．
12 月 7 日，8 日に三重県にて開催された魚病症例研究会，魚病部会に参加した．地域ブロック毎の魚病の発生状況，症例検討などを行った．
3 月 10 日に東京都にて開催された全国養殖衛生管理推進会議に参加した．水産防疫対策の実施状況等について報告があった．

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導
平成 28 年度の養殖場巡回は 45 回行った．魚病対応が最も多く 24 件、巡回指導が次に多く 9 件であった．魚病診断件数は 30 件であった（表 1）．

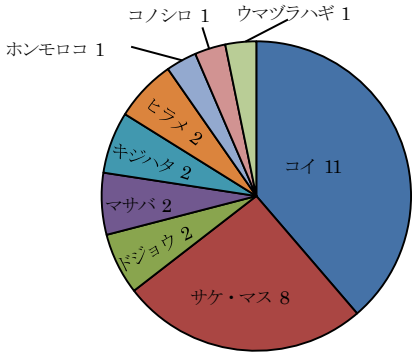

図 1　平成 28 年度魚種別魚病診断件数

平成 28 年度の魚種別魚病診断件数を図 1 に示した．近年は新たなサケ・マス養殖業者の参入などがあり、サケ・マスの生産量の増大に伴い，サケ・マスの魚病診断件数が増加している．今後はこれまでに見られなかったサケ・マスの魚病が発生することも考えられる．

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策
キジハタで発生したハダムシ症について対策を行った．ハダムシ症は海面のブリ養殖などで問題になっている寄生虫症である．魚体についたハダムシは淡水浴をすることで駆虫した．また，ハダムシの卵が水槽壁面等に付着しており，ハダムシの増加を防ぐため付着物を除去することで対処した．

表１　平成 28 年度疾病診断状況

内水面

区分	魚種	病名	H28												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
養殖	ギンザケ	水カビ病		1			1								2
		EIBS			1										1
		不明		1											1
	サクラマス	IHN		1											1
		さいのう水腫症								1					1
	ニジマス	冷水病									1				1
	ヤマメ	細菌性鰓病								1					1
	ホンモロコ	キロドネラ症			1										1
	ドジョウ	カラムナリス症	1												1
		トリコジナ症＋ギロダクチルス症							1						1
天然	コノシロ	不明			1										1
	ニシキゴイ	KHV			1										1
		不明（KHV検査陰性）	1	1	1	3	2	2							10
															23

海面

区分	魚種	病名	H28												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	**合計**
養殖	マサバ	マダイイリドウイルス病						2							2
		アミルウージニウム症													0
	ウマヅラハギ	アミルウージニウム症					1								1
	キジハタ	ハダムシ症					1		1						2
天然	ヒラメ	ネオヘテロボツリウム症	1												1
		腸管白濁症									1				1
															7